

◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「寄稿文」
- 4 「領事便り」
- 5 「広報・文化便り」
- 6 「政治」
- 7 「経済」

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

厳しい寒さが続きますが、皆様如何お過ごしでしょうか。

思い返せば、1年前に天皇誕生日レセプションを盛大に開催することができましたが、以後、大きなイベントは一切自粛、キャンセルになってしまいました。ケベックでは年明けからの外出禁止令も依然継続されていて、不自由な生活が続いています。邦人の皆様におかれましても、本当に大変だった1年だったと思います。

その一方、最近になってようやく、ケベック、モンリオールではコロナウイルス新規感染者の数が減ってきました。また、ワクチンの接種も、供給が停滞したせいで一時接種数が減りましたが、近いうちに接種作業が再び本格化するようです。感染者の減少傾向が続けば、規制措置も更に緩和されることになるでしょう。このように希望が持てる動きも出てきましたので、この不自由な生活も今しばらくの辛抱であってほしいと思います。

総領事館の人事で一つお知らせがあります。当館の領事班の班長として、皆様への領事サービスの総括をしてきた八島領事がアルゼンチン大使館に異動になりました。彼の2年半の当館の勤務の間に、当館での業務や領事出張サービス等の様々な機会に皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げますとともに、後任の久我副領事が間もなく当館にて勤務を開始しますので、引き続きご指導のほどよろしく申し上げます。

2 総領事館からのお知らせ

- (1) 2021年 2月、3月の休館日のお知らせ
土、日曜日のみ閉館

3 寄稿 ～モンリオール日本人青年会 代表 吉田 昇より～

毎週木曜日、午後6時半から二時間ほどの間、とある語学学校Aのカフェテリアでは飛び交う笑

い声が和やかな空間を築きあげていました。40人ほどの若者が自分の学ぶ言語を練習するために、一生懸命に意思疎通を図っているその場はとても暖かいものでした。3週間前にカナダに上陸したばかりの15歳の高校生が、日本語歴3ヶ月の40歳のケベック人に片言のフランス語とボディランゲージを駆使して会話をしている姿がそこにはありました。

これは、2020年3月にCOVID-19の世界的パンデミックが始まる前の世界の話です。ついですが、上記のイベントはモントリオール日本人青年会が主催していた語学交流会（ランゲージ・エクステンジ）です。

たとえ今日ロックダウンが解除されたところで、冒頭に書いた情景を再現するのは簡単な事ではありません。それは、抱える学生数が低下して語学学校Aが実際に閉業に追い込まれてしまった事、日本人の学生・ワーホリがカナダに入国できない事、同じ場所に大人数で集まる事の恐怖感等、今回の新型コロナウイルスの到来がもたらした数多くの要素が影響しています。しかし、こんな世の中に負けていられない現実もあります。

自己紹介が遅れてしまいました。モントリオール日本人青年会（通称日青会）の代表の吉田と申します。日青会は、ケベック州の日本人来訪者にケベックの魅力を知ってもらう事や、逆に現地の方に幅広い意味での日本文化を知ってもらう事を始めとした目的を果たすために、2018年5月に設立した非営利団体です。主にイベント企画及びSNSの運営などが活動内容となっています。

今回はコロナ禍における留学生事情についてお話しいたします。本メールマガジンの読者の多くが留学生とは関わりの無い毎日を送っていると思うので、できる限りわかりやすく学生についての状況をご説明いたします。

まず、学生の定義ですが、留学生は4つのカテゴリーに分けられます。正規留学生、交換留学生（交換生）、大学院生、それから語学留学生です。正規留学生は、基本的には現地の学生と同じ環境で4年間（4年生の学部の場合）留学先の大学に通う学生のことを指します。次に交換生は、半年又は一年といった短期で留学する学生のことをいいます。大学院生は、正規留学生と環境的にはあまり変わりませんが、大学に通って受講する代わりに、研究室に入って研究する方も含みます。最後に、語学留学生は大学又は高校ではなく語学学校に、短期（半年から一年）で勉強する学生を指します。ワーホリの方の多くは、語学留学生でもあります。

2020年3月以前、正規留学生は完全に現地の学生と同じ環境下で学生生活を送っていたので、学校の授業や課題以外にも、家探しやアルバイトなど、生活に関わる事を全て行う必要がありました。モントリオールに来訪する交換留学生の間では、マギル大学及びモントリオール大学が大変人気でした。UQAMやコンコルディア大学に留学する学生もおりますが、いずれも少数派でした。現地の他の大学生と並んでこちらの大学の講義を受けるので、最初の数ヶ月は語学の壁が厳しく苦労している様でした。

大学院生については、所属している大学や学部・学科によってかなり差がありますが、生活に関しては正規留学生と同じ感じでした。語学留学生の多くは、週に10から20時間ほど市内にある語学学校にて英語もしくは仏語を勉強していました。

そして昨年3月、留学生の状況の全てが変わりました。現在、モントリオールに在留している交換生は一人もいないと認識しています。実際問題、カナダに入国規制が設けられているので、ど

この大学も現在交換留学生を受け入れていません。2020年3月の緊急事態宣言時にこちらにいた学生は、数週間以内に次々と帰国していきました。語学留学生についても、同じ状況です。

現在でも、運営し続けている語学学校はありますが、ほとんどがネットを通して授業を行っている様です。正規留学生及び大学院生については、大多数の学生が日本に帰国した様ですが、一部はそのままカナダに残っている者もいます。さらに、一度帰国した後にモントリオールに戻ってきたケースもあります。

現在、大学の授業は一部を除き、すべてオンラインで行われています。大学によって利用している仕組みは様々です。試験時にカメラを起動して試験官がネットを通して監視する学校や、世界各地に帰国した正規留学生の時差の状況を踏まえて、48時間以内であればいつでもテストを提出することができる仕組みであったり、それぞれの学校が知恵を振り絞って対応しています。

日青会でも、活動の内容が大きく変更しました。もともと、体育館を貸し切って「体育祭」という名の運動会的行事やモントリオール日本国総領事館の協力のもと、総領事公邸で留学生の交流パーティーなど、参加者同士が直接会う事が重要なイベントを主催してきました。日青会のスタッフの会議も、大学の図書館や教室を借りて行ってきました。

現在では、全てインターネット上で行っています。初めは、問題が多く戸惑うことも多かったですが、ここ数ヶ月ほどは新しい方向性に向かって進む事ができている気がします。実際に、オンラインで行う事によるメリットなどもあります。例えば、今まではミーティングに参加できるのはモントリオールに在留しているメンバーのみでしたが、今では日本、モントリオール、アメリカ、それとフランスにいるメンバー全員で会議ができています。それぞれの時差を考慮するのが大変ですが、今まで以上にオープンな組織に成長できていると感じます。

最後に、来月の11日は2011年に発生した東日本大震災から10年後に当たります。それを機に、メモリアルイベントを主催いたします。世界的に名の通じている専門家や教授に、様々な観点から今でも重要な震災の影響についてお話いただきます。ご興味があれば、FacebookでJSAM (Japanese Seinen Association of Montreal) とご検索ください。10年後の今でも、苦しんでいる方はたくさんいます。実際に被災地に行く事はできませんが、こちらでもできることはやりたいと思っています。応援ありがとうございます。

モントリオール日本人青年会 代表
吉田 昇

4 領事便り

(1) 領事窓口の開館時間

当地における新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、当館の感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、昨年4月1日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

・領事窓口の開館時間

10:00~15:00 (昼12:30~13:30を除く)

※9:00~10:00及び15:00~17:00につきましても、電話照会（緊急の場合）・メール対応を実施しています。

※来館時の注意点

昨年3月25日よりケベック州政府の要請を受ける形で、当館が入居するビル管理会社側が、入居テナント従業員以外の入館を1階受付において制限しています（土日祝日等の休館時対応と同様の措置）。

当館へ来館される方につきましては、1階受付において、氏名とともに在モンリオール日本国総領事館への訪問理由を告げるにより、入館を許可されることとなっています。

（2）本年度の領事出張サービスについて

新型コロナウイルス流行の影響により、現時点においては領事出張サービスの実施を見合わせている状況です。

今後、各州の状況を注視しつつ、行動・移動制限が緩和されれば、領事出張サービスの再開を検討しますので、在留邦人の皆さまにおかれましてはご不便をおかけしていますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

（3）在留状況確認調査（ご協力のお願い）

※海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認させていただいております。

ア 「在留届」の記載事項に「変更」の無い方

在留確認を記録するため、名前（ローマ字）と「変更無し」の一語を返信ください。

イ 引き続き管轄内にお住まいで「住所・電話番号・滞在予定期間等」に変更がある方、既に日本に「帰国」されている方、または他の在外公館の管轄区域に「転出」された方以下のいずれかで手続きをお願いします。

（ア）インターネット（オンライン在留届（ORRネット））から在留届を提出された方
オンライン在留届（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>）での手続きをお願いします。

※ログイン用パスワードを忘れた方は、システムのメニュー「パスワードを忘れた方」ボタンからパスワードの再登録をお願いします。

※「帰国日」または「転出日」が不明な場合はおおよその年月日でも結構です。

（イ）在留届用紙に記入して届け出られた方

「変更届」（<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/henko.xlsx>）または「帰国・転出届」（<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/kikoku.xlsx>）を提出（Eメール、Fax、郵送、来館）してください。

※「帰国日」または「転出日」が不明な場合はおおよその年月日でも結構です。

（補足）上記エクセルシートを利用する代わりに、本メールの返信として「帰国日」または「転出日」と「帰国・転出者の氏名」を記載していただいても結構です。

（ご連絡先）在モンリオール日本国総領事館 領事班 在留届担当

ホームページアドレス https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

電話：1 (514) 866-3429 ★10:00-12:30、13:30-15:00★

F A X : 1 (514) 392-1639 メール : zairyu@mt.mofa.go.jp
住所 : 1 Place Ville Marie、 Suite 3333、 Montreal、 Quebec、 H3B 3N2 CANADA

5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（ culture@mt.mofa.go.jp ）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

（１）当館ツイッターアカウント

当館ツイッターアカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

（２）２０２１年度ＪＰＯ派遣候補者選考試験のお知らせ

外務省国際機関人事センターでは、２０２１年度ＪＰＯ（ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー）派遣候補者選考試験の事前登録を２月２５日（木）まで受付けています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/index.html>

また、２月２０日（土）２２時～２３時１５分（日本時間）には、オンライン説明会も行われます。詳細はこちらからご確認ください。

<https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/2021/dl-data/jpo-setsumeikai.pdf>

（３）日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様への御参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんので御了承ください。

●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。

１月１８日より隔週月曜 １９時～２１時

参加費：無料

問い合わせ・申込先：佐藤祥子氏 sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

●在カナダ大使館主催日本文化週間（オンライン）

日本酒講演、NHKドキュメンタリー、映画上映、童謡コンサートなどがお楽しみいただけます。全て無料です。

２月１１日（木）～３月１６日（火）

https://www.ca.emb-japan.go.jp/itpr_en/february-events-2021.html

6 政治

(1) ケベック (QC) 州

- ・ 1月7日、州保健研究所 (INS PQ) では例年、州内で年間2、000件のインフルエンザ感染を確認しているが、今シーズンはゼロ。
- ・ 1月14日、モンリオール最大級のシナゴグであるウエストマウントの Shaar Hashomayim で、かぎ十字のシンボルの落書き被害。ユダヤ系団体や連邦・州首相は反ユダヤ的行為であるとし非難。犯人は逮捕された。
- ・ 1月18日、ジョリ=クール (Felix-Antoine Joli-Coeur) 氏が新党立ち上げと、2021年11月実施予定のモンリオール市長選出馬を表明。同氏は政治アドバイザーやコンサルタント等の経歴を持ち、フィッツギボン州経済・イノベーション大臣に近い人物。
- ・ 1月27日、モンリオール市議会は、違法薬物所持所持の非犯罪化を連邦政府に求める動議を47対13で可決。個人使用目的の薬物所持については、カナダ警察署長協会、連邦・州・市保健局長、モンリオール警察 (SPVM) も非犯罪化に賛成しており、バンクーバーやトロントの市議会も最近同様の動議を採択済み。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 1月9日、州北部 (Terres-Cries-de-la-Baie-James と Nunavik) を除く州全域で、20時~5時の時間帯の夜間外出禁止措置開始。警察等が取り締まりを行い、不要不急の外出をした場合は1、000~6、000加ドルの罰金が科される。
- ・ 1月7日、州政府は、ワクチンをできるだけ早く、できるだけ多くの人に接種するため、当初2回目分として取っておいたワクチンも1回目分として使用する方針に変更。州保健研究所 (INS PQ) は、製造元のデータによれば、2回目接種までの期間が開いても被接種者の健康を損なうことはないとしている。12日、州政府は、2回目接種開始を3月中旬に決定。
- ・ 1月12日、ルゴー州首相は、PCR検査に比べて精度は落ちるものの検査結果がすぐに出る「ラピッドテスト」について、短期的には使用の予定はないと発言。州は130万本を受け取ったが現状6、500本しか使用していない。
- ・ 1月12日~14日、1回目のワクチン被接種者が感染。モンリオール圏の医療センター (Maimonides Geriatric Centre) の入居者7人、ケベックシティの長期介護施設 (CHSLD Saint-Antoine) 入居者でカナダのワクチン被接種者第1号も。
- ・ 1月18日、州治安省は、夜間外出禁止令施行1週間で合計1、429人の違反者が出たと発表。うち353件はモンリオール警察 (SPVM) 管轄。
- ・ 1月19日、ルゴー州首相は3月の春休みシーズンに備え、トルドー連邦首相に対し不要不急の国際便運航停止を要求。29日、州政府は、連邦政府による1月31日~4月30日のカリブ・メキシコ便運航停止と国外からの渡航者に対する検査実施・隔離措置の決定を歓迎。
- ・ 1月19日、ホームレス男性の路上死を受け、プラント・モンリオール市長は、夜間外出禁止令のホームレスへの適用免除を要求するも、州政府はこれを認めず。27日、州上級裁判所は、同法令はホームレスには適用されるべきではないとの判決を下し、州政府は同判決を受け入れる。
- ・ 1月25日、ファイザー・ビオンテック製ワクチンが全国で1週間供給停止。
- ・ 1月27日、第2波到来以来、子どもにみられる川崎病に類似した症例の報告が増加。
- ・ 1月28日、州統計局 (ISQ) によると、2020年の州における死亡率が10%増加。2010~2019年の増加率は年平均約2%。

(2) ニューファンドランド・ラブラドール (NL) 州

- ・ 1月15日、フューリー州首相は、2月13日の州議会総選挙実施を発表。
- ・ 1月26日、連邦警察は、ディアレイク (ニューファンドランド島北西部) で大量のナイフを持った不審者を逮捕。容疑者は、ディアレイクを選挙区として選挙運動中のフューリー自由党党首兼首相を標的にしようとしていたとの報道。けが人はなかった。
- ・ 1月27日、州政府は、今シーズン州内で確認されたインフルエンザ件数は、現状ゼロであると発表。

(3) プリンスエドワードアイランド (PEI) 州

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 1月6日、集まり人数に関する規制が一部緩和される。
- ・ 1月23日、集まり人数に関する規制がさらに緩和される。コンサート、宗教行事、映画館などの集まり人数制限は50人ずつのグループ4つまで、合計200人まで許可 (結婚式と葬式は50人まで)。レストラン、バーのダイニングスペースは営業時間が0時まで延長に。

(4) ノバスコシア (NS) 州

- ・ 1月18日、臓器・組織提供拒否を意思表示 (opt out) しない人はドナーとみなされる、北米初となる人体臓器・組織提供法 (Human Organ and Tissue Donation Act) が施行。みなし同意 (deemed consent) は、臓器・組織の生前提供や研究・教育目的の提供には適用されず、未成年 (19歳未満)、留学生、一時就労者等はドナーとはみなされない。また提供の機会が起きた時には、ドナーの生前の希望について再度確認するために遺族に対して引き続き聞き取りが行われる。
- ・ 1月18日、カナダ統計局によると、ハリファックス (HRM) の人口は2020年7月に史上最高となる448、544人を記録した。前年比9、015人増のうち5、751人は海外からの移住者。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 1月4日、ハリファックス地域で閉鎖されていたレストランやバーのダイニングスペースが再開。
- ・ 1月9日、NB州からの入州者に対する14日間の自主隔離義務付け開始。
- ・ 1月15日、州内居住地とNS・PEI・NL州外にある職場との定期的な移動を伴う労働者 (rotational worker) に対する、自主隔離中の検査義務付け開始。
- ・ 1月15日、マクニール州首相は、ワクチン供給が中断なく行われるという保証のない限りは、1回目の接種を受けた人のために2回目分を取っておく方針を変えないと明言。
- ・ 1月22日、州政府は、2020年12月に同州で検出されていた2例が、カナダ国立微生物研究所によるサンプル検査によって変異種であったと特定された旨発表 (1つは英国変異株、1つは南ア変異株)。いずれの症例もカナダ国外からの旅行関連。

(5) ニューブランズウィック (NB) 州

- ・ 1月7日、フレデリクトンで妊娠中絶手術を提供する、州内唯一の民間クリニックであり閉鎖の危機にある Clinic 554 に関し、市民団体「Canadian Civil Liberties Association」は、病院外における同手術の州医療保険適用を妨げている規制の一部撤廃を求め、州政府を相手取り州上

級裁判所に提訴。

- ・ 1月12日、セントジョン市は、2020年11月にサイバー攻撃の被害を受けた同市のウェブサイトを一から作り直すと発表。攻撃を仕掛けたハッカーに「身代金」は支払っていないとのこと。
- ・ 1月15日、2021年中の見直しが定められている州公式言語法(Official Languages Act)について、ヒッグス州首相は、近日中に任命する2人の担当者が非公開で見直しを行うと発表。野党や仏語団体は、非公開ではプロセスが不透明になると非難。またヒッグス首相が同法の適用外である学校制度も合わせて見直そうとしていることについては混乱を懸念。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 1月6日、州全域の警戒レベルがオレンジに引き上げられる。
- ・ 1月9日、州境の往来規制がさらに制限される。州内に不動産を所有する人や家族・親戚がいる人は入州が不可能に。
- ・ 1月18日、エドマンズトン含むゾーン4の警戒レベルが赤に引き上げられる。学校は対面授業を継続。
- ・ 1月20日、モンクトン、セントジョン、フレデリクトンを含むゾーン1、2、3の警戒レベルが赤に引き上げられる。
- ・ 1月23日23:59より、エドマンズトン含むゾーン4がロックダウンに。期間は少なくとも14日間。学校は遠隔授業に切り替わり、必要不可欠業種のみ営業が許可される。保育園は継続。
- ・ 1月24日、連邦警察(RCMP)は、モンクトンで開催されたマスク着用反対集会で少なくとも5人を逮捕。
- ・ 1月26日23:59より、セントジョンとフレデリクトンを含むゾーン2と3の警戒レベルが赤からオレンジに引き下げられる。
- ・ 1月30日、警戒レベルがオレンジのゾーンにおける私的な集まり人数の上限が緩和される。同居人以外は許可されていなかったのが10人(メンバーは固定)まで追加可能に。

7 経済

(1) QC州

- ・ 1月12日、フィッツギボン州経済・イノベーション大臣は、州のGDPがコロナ禍以前の水準に戻るのには、当初の予測(2021年秋)から遅れて2022年第一四半期となるであろうとの見解を表明。
- ・ 1月12日、豪ピードモント・リチウム(Piedmont Lithium、以下「ピ」社)は、同じく豪企業であるサヨナ(Sayona、以下「サ」社)の株式を20%取得するとともに、「サ」社のQC州子会社が所有するリシア輝石鉱山(州西部ラモットのAuthier(認可申請中)とモフェのTansim(探査中))を25%取得。「ピ」社は自社生産量の3分の1のリシア輝石を供給することで、テスラと合意締結済み。
- ・ 1月15日、ハイドロケベックは、QC州と米マサチューセッツ州をつなぐ送電線建設承認の最後のステップであった大統領令(presidential permit)を遂に取得。同プロジェクトでハイドロケベックは、ニューイングランド地域に1、200メガワットの電力を供給することが可能になる。
- ・ 1月19日、電気バス・トラック製造のリオン・エレクトリック(Lion Electrique)は、バス運行企業セガン(Autobus Groupe Seguin)から電気スクールバス60台を受注。

- ・ 1月19日、ロングイユに仕分けセンターを開設したばかりの米アマゾン、QC州内に配送・仕分け拠点をあと4つ開設する予定であると表明。全5拠点合わせて1,000人以上の雇用が創出される見込み。
- ・ 1月21日、州政府は、太陽光を使ったグリーン水素製造技術開発支援のため、ヴァレンヌの州科学研究所（INRS）に1,500万加ドルを支出する。
- ・ 1月26日、エア・リキードは、世界最大のプロトン交換膜（PEM）電解槽をベカンクール工場に設置完了、運転開始。1日8.2トンの工業用グリーン水素を製造する同装置は、従来の水素製造法に比べ年間2.7万トンの二酸化炭素（自動車1万台分の年間排出量に相当）が削減できる。
- ・ 1月28日、エアトランザットは、トロント発着全便運休と、モントリオール発着の2便（Varadero（キューバ）、Puerto Vallarta（メキシコ））の運休を決定。
- ・ 1月29日、ボンバルディアは、鉄道事業の仏アルストムへの売却を完了。最終的な売却額36億米ドルは、100億米ドルを超えるボンバルディアの長期債務削減に充てられる。

（2）大西洋州

- ・ 1月12日、エアカナダが大西洋州を含む地域でさらに25%の減便を発表。23日より、NB州フレデリクトン発着全便が運休となり、同空港には民間旅客機の発着がゼロに。NL州でもトロントやハリファックスと結ぶ3便が運休となり、ラブラドルに発着する民間旅客機はPAL航空のみとなる。エアカナダはまた、グループ会社含み1,900人を解雇。
- ・ 1月21日、大西洋州経済評議会（APEC）は、今後20年間で大西洋地域における75歳以上人口は32%増加し現在の2倍となり、医療費と労働力の面で地域経済に多大な影響を与えるであろうとの見通しを発表。大西洋州は既に現在国内で最も高齢化が進んだ地域であり、2040年には若者2人に対して高齢者3人になると同シンクタンクは予測している。
- ・ 1月28日、カナダローン住宅公社（CMHC）の賃貸住宅に関する調査によると、2020年、賃料上昇率が最も高かった地域はON州に次いでNB州、NS州であった。NB州で賃料が最も高いのはフレデリクトン（2ベッドルームで月額平均979加ドル）だが、同州においてはモンクトンで前年比4.7%増と上昇率が最も高かった。NS州ではハリファックスで前年比4.2%増であった。

（3）NL州

- ・ 1月12日、ノルウェーの石油大手エクイノールは、カナダ国内拠点をAB州カルガリーからNL州セント・ジョンズに移転する。カナダ西部のオイルサンド事業を清算し、NL州沖のオフショアプロジェクトに集中する。
- ・ 1月14日、州政府は、サンコーエナジー（本社AB州）に対し、テラノバ・オフショア油田の1.75億加ドル分のロイヤルティ支払い免除を発表。サンコーが同額を支出して生産停止中の同プロジェクトを再開し長期的に生産継続することが条件。最終合意期限は3月31日。
- ・ 1月15日、ハスキーとサンコー（共に本社AB州）は、ホワイトローズ・オフショア油田のロイヤルティが過払いであると州政府を提訴。両社は、2014～2017年の間に3,200万加ドルを支払い過ぎたと主張。

（4）PEI州

- ・ 1月14日、州大麻販売公社P.E.I. Cannabis Management Corporationは、2019年度に65.3万加ドルの収益を記録し、創立2年目で黒字を達成。

- ・ 1月22日、健康食品製造の Island Abbey Foods は、同社ののど飴「Honibe lozenges」需要減のため、パート雇用従業員を30人解雇。今シーズンは全国的に風邪にかかる人が少ないとのこと。
- ・ 1月26日、大麻製造会社 FIGR Group は、企業債権者調整法の適用をON州上級裁判所に申請、承認される。同社は従業員200人のうち、144人をシャーロットタウン拠点 (Canada's Island Garden) で雇用している。

(5) NS州

- ・ 1月8日、州上級裁判所は、NS州の Membertou とNL州の Miawpukek が率いる大西洋州のミクマク連合と、食品流通大手プレミアムブランドズ (Premium Brands、本社BC州) による、水産大手クリアウォーター (Clearwater、本社ハリファックス) 買収を承認。25日、10億加ドルの同買収が完了し、ミクマク連合とプレミアムブランドズはそれぞれ半分の所有権を取得。
- ・ 1月21日、ラブラドルのマスクラットフォールズ発電所一部稼働開始にともない、2020年12月中旬からNS州に送電開始。ニューファンドランド島とケープ・ブレトンをつなぐ170キロメートルの海底ケーブル等からなる「マリタイムリンク」は、NS州の電力会社「NSパワー」の親会社エメラ (Emera) が所有しており、電気が届いていない中2018年より、15.7億加ドルの建設費用がNSパワーの電気料金に上乗せされてきた。
- ・ 1月28日、三菱商事は、ダートマスのクリーンテック企業カーボンキュア・テクノロジーズ (CarbonCure Technologies Inc.、以下「カ」社) に資本参画。出資額は明らかにされていない。「カ」社の二酸化炭素除去 (carbon dioxide removal (CDR)) 技術は、コンクリート原料のセメント製造時に出る二酸化炭素を回収・注入するというもの。通常のコンクリートと比べ強度は高まり、二酸化炭素排出量とセメント使用量を削減できるが、コストは変わらないという。アマゾンやマイクロソフトも「カ」社に出資しており、アマゾンは米ヴァージニア州に建設中の第2本社拠点到「カ」社の技術で強化されたコンクリートを使用している。

(6) NB州

- ・ 1月5日、沿海3州で長距離バスを運行するマリタイムバス社は、需要減のためNB州を南北に結ぶモンクトンーキャンベルトン、フレデリクトンーエドマンズトンの2路線を15日に運休とすると発表。14日、同社は、運休の2週間延長を決定。29日、NB州政府は、同社への72万加ドルの緊急支援を発表。連邦・州政府が半額ずつ支出する支援金はエドマンズトン市経由で同社に支払われ、同社は2021年中は同路線の運行を継続できる見込み。
- ・ 1月21日、アーヴィング・オイルは、燃料の需要落ち込みを理由に、セントジョン精製所の従業員約60人を解雇。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。 emagazine@mt.mofa.go.jp

○配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止 (又は登録解除)」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、 emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡願います。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同

ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○バックナンバーの閲覧は、以下のホームページからお願いいたします。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ (www.kantei.go.jp)

外務省ホームページ (www.mofa.go.jp/mofaj/)

在カナダ大使館ホームページ (www.ca.emb-japan.go.jp)

当館ホームページ

(https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333、

Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当
(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■